



地域まちづくり未来事業計画

《 櫛引版 》



鶴岡市櫛引庁舎
令和2年2月現在

目 次

1	地域まちづくり未来事業計画について	P1
	(1) 策定の趣旨	
	(2) 計画期間	
	(3) 計画の位置付け	
	(4) 財源について	
2	櫛引地域の振興方針と施策の方向について	P3
3	櫛引地域の実施事業について	P4
	櫛引地域まちづくり未来事業一覧	
	個別事業資料	

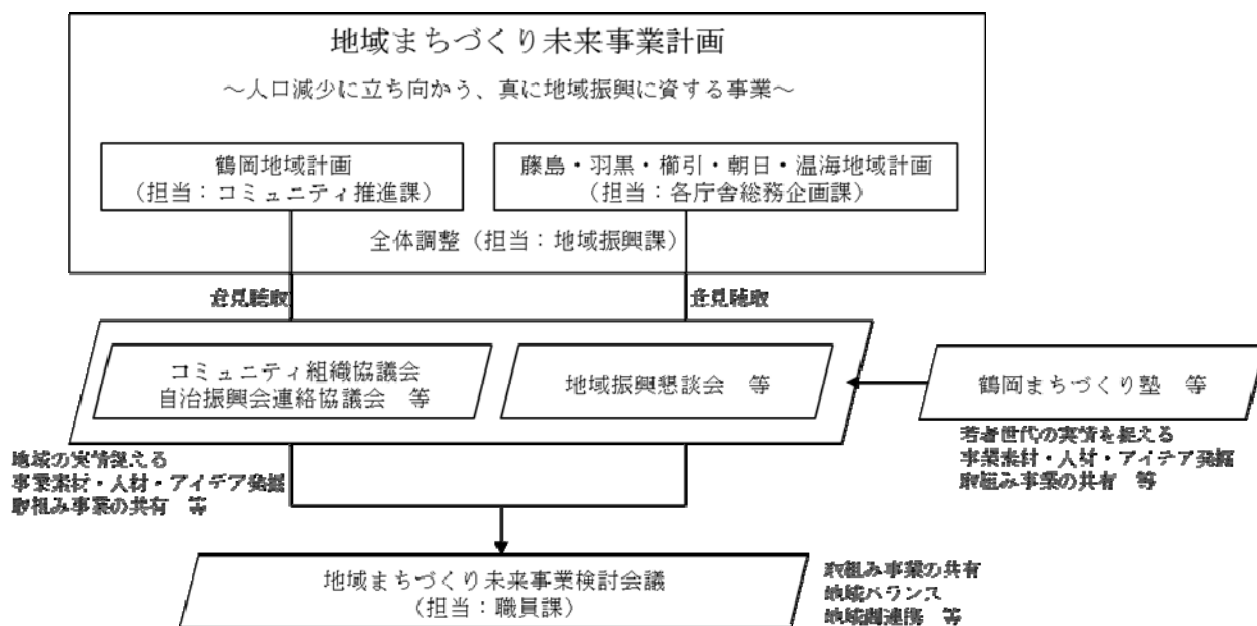
1 地域まちづくり未来事業計画について

(1) 策定の趣旨

「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として実施することとし、これを地域まちづくり未来事業計画の中に位置づけ明らかにします。

地域まちづくり未来事業計画に基づいて地域ごとに事業を実施することにより、魅力あるまちづくりを推進するものです。

また、策定にあたっては、全ての地域が個性を發揮し、その魅力を高めるとともに、人材を育成していくまちづくり活動を活性化できるよう、各地域振興懇談会や鶴岡まちづくり塾、地域まちづくり未来事業検討会議など、様々な場面において地域の意見を伺い反映しています。



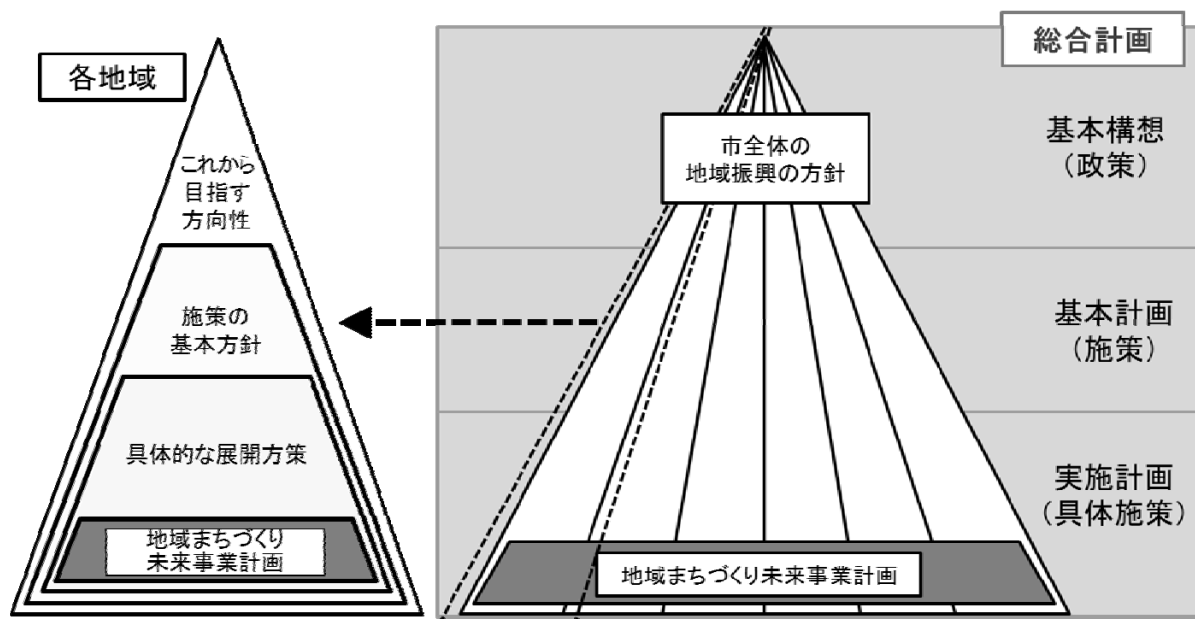
【地域まちづくり未来事業計画策定のイメージ】

(2) 計画期間

平成31年度から概ね3年程度とし、年度ごとに見直しを行います。

(3) 計画の位置付け

地域まちづくり未来事業は、第2次総合計画【計画期間：2019年度（平成31年度）から10年間】及び各地域の地域振興計画【計画期間：2019年度（平成31年度）から5年間】において、地域振興の方針を実現するためのより具体的な施策として位置づけられます。



【総合計画と各地域振興の方針・地域まちづくり未来事業計画の関係】

(4) 財源について

地域まちづくり未来事業は、主な財源として「地域まちづくり未来基金」を充てるほか、交付税措置の起債の充当のほか、活用できる国・県等の交付金なども活用します。

2 櫛引地域の振興方針と施策の方向について

地域振興の基本方針

櫛引地域は、本市を代表する果樹の生産地であり、黒川能をはじめとする伝統芸能や、丸岡城跡及び加藤清正墓碑などの歴史遺産が数多く残る地域です。さらには、中央を南北に貫流する赤川や庄内が一望できる中山間地などの豊富な地域資源を有しています。これらの特性を生かすことで、地域内外のたくさんの人々が集い交流する賑わいの創出と、ここに住む人が将来にわたって物心ともに豊かに暮らせる活力ある地域づくりをめざします。

櫛引の果樹生産の特徴である多品目生産と、観光果樹園や産直などの先進的な取組を生かし、「フルーツの里」としてのブランド化と果樹を中心とした産業振興の拠点づくりを進めます。また、農業体験や自然体験の環境整備を進めることで都市部との交流人口の拡大を図り、地域を越えて連携する広域の観光周遊の仕組みづくりに取り組みます。

黒川能を始めとする貴重な伝統芸能の保存と継承を支援し、あわせて観光資源としての活用を図ります。また、赤川周辺の施設や自然、芸術作品などを活用した憩いと賑わいの拠点づくりを進め、地域の活性化につなげます。

少子化や高齢化、人口減少などを見据え、住民の暮らしを守るための、地域コミュニティの維持活性化と、健康で安全で安心な生活が送れる仕組みづくりを進めます。

施策の方向

1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり

櫛引地域の強みである果樹生産を一層振興し、観光果樹園や加工、直売の6次産業化も促進しながら、地域農業の活性化を図ります。

- (1) 果樹生産基盤の整備推進
- (2) フルーツの里ブランド化の推進
- (3) 観光果樹園の拡大とネットワーク化
- (4) 担い手育成と樹園地流動化の推進

2. 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進

農業体験や農家民宿、産直、観光果樹園などと、自然や歴史文化などの地域資源を活用したネットワークを形成し、交流人口の拡大を図ります。

- (1) 都市交流人口拡大の推進
- (2) 農業自然体験フィールドの充実
- (3) 体験型観光農業の充実

3. 地域を越えて連携する広域観光圏の形成

櫛引地域単独の取り組みを越えて黄金地区、朝日地域と本市南部地区の広域観光圏の形成を図ることで、出羽三山と連携した滞在型観光を組成していきます。

- (1) 南部（櫛引・朝日・黄金）広域観光拠点の整備
- (2) 地域主体の二次交通システム開発
- (3) 広域観光幹線道路の整備促進

4. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用

黒川能や丸岡城跡など貴重な歴史文化資源と、これらの連綿とした地域の伝承活動を確実に保存継承しながら、さらに価値を高めていく取り組みを推進します。

- (1) 黒川能等民俗芸能の継承支援
- (2) 歴史文化の活用促進

5. コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進

地域の担い手の育成や広域コミュニティの設置検討、集落の連携などの新たな仕組みづくりを支援します。健康維持の拠点づくりや地域公共交通の構築など、健康で安全、安心に暮らせる環境整備を進めます。

- (1) 活力と持続性のあるコミュニティの推進
- (2) 協働のまちづくりと地域の賑わい創出
- (3) デマンド交通や外出支援策の推進
- (4) 健康で安全・安心なまちづくりの推進
- (5) 地域資源を活かした地域づくりの推進


3 実施事業について

櫛引地域まちづくり未来事業一覧

(単位：千円)

No.	事業名	事業内容	R1当初 予算額	事業 期間
1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり				
1	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	担い手確保やブランド化等の課題解決に向けた「くしびき果樹産地強化プラン」の策定と関係機関が一体となった取組みによる産地強化	4,745	H31～
2. 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進				
2	都市農村交流促進事業	首都圏の小学校や大学等との交流実績を活かすため、農産物販路拡大や農家民宿を強化・支援	759	H31～
3	たらのきだいネイチャーパーク事業	「櫛引たらのきだいスキー場」と「ほのかたらのきだい」の機能を見直し、両施設の利用者が年間を通して増加することを目指し再整備	5,710	H31～
3. 地域を越えて連携する広域観光圏の形成				
4	鶴岡市南部地域広域観光二次交通網整備	市南部地区（櫛引、朝日、黄金等）との広域観光連携を推進するための、観光商品の開発提供、エージェントとの連携強化、観光客の二次交通輸送システムの構築	660	R1～
4. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進				
5	伝統芸能アーカイブ事業	黒川能の映像・音声データのデジタル化保存と伝承活動への活用	214	H31～R3
6	黒川能保存伝承支援事業	保存伝承研修会（講演）開催支援や東小児童仕舞い指導等の担い手育成、黒川能保存会運営補助金による支援など	3,068	H31～
7	能楽青年交流事業	学生・青年層の能楽合宿の誘致による地元住民・若手能役者との交流、農業体験、観能の実施	400	H31～R3
8	丸岡城跡環境整備事業	利用拡大のため大型バスでの来訪等にも対応できる駐車場の整備 ※社会教育予算での実施	-	R2
9	櫛引綴れ織り文化保存事業	故遠藤虚籟の顕彰と櫛引綴れ織りの情報発信等を通じた作品製作の再生産体制の確立と伝統工法の継承	2,076	H31～
5. コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進				
10	櫛引地域デマンドバス導入事業	高齢化社会の住民ニーズに沿った既存の公共交通を補完する新たな地域公共交通システムの構築	1,005	H31～
11	くしびき若者未来創造事業	地域の若者を対象とした研修会やグループ討議の実施	705	H31～
12	希少淡水魚保存事業	イバラトミヨの種の保存活動と公共施設等での展示	136	H31～
13	花いっぱい運動で環境美化推進事業	住民協働による植栽活動で櫛引らしい住みよい生活環境を構築する取組への支援	300	H31～
14	くしびき夏のイベント推進事業	水焰の能と連日開催する「くしびき夏祭（JA、商工会、工業団地連絡協議会等による実行委員会が運営）」に対する補助	360	H31～
15	櫛引地域交通安全・防犯の日啓発事業	交通安全啓発として30年以上続いてきた毎月1日の「交通安全の日」の小旗掲揚について、新たに防犯啓発の内容も加えて小旗を更新し、チラシ等での周知により運動を促進	1,145	H31
16	櫛引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業	既存の補助事業等の活用により、地区の意向に沿った高齢者の活動拠点が設置できるよう地区に対する側面支援（相談・指導・情報提供など）を行い、高齢者が安心して生活できる地域づくりを推進	-	R2～
17	「空にかける階段」インフォメーション事業	鶴岡市名誉市民である彫刻家富樫実氏の作品を紹介するブースの整備と市内の作品群を観賞・回遊できる仕組みづくり	234	H31～
18	櫛引地域の情報発信事業（櫛引PR事業）	SNSページ「くしびきフルーツ日記」における動画との連動した情報発信	397	H31～
19	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業	赤川かわまちづくり計画（R2～R9）と連携した、櫛引赤川エリアの橋梁、管理道路の更新や馬渡の桜並木、レンタサイクル、遊具等の整備	-	R2～R9
20	山添校跡地の子育て活用構想	安全に遊べる・休日に親子でふれ合えるの場の創出を検討	-	R3～

R1 予算額合計 21,914 千円


事業名	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	実施年度	R1～	事業種別	ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(1) フルーツの里づくり	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<ul style="list-style-type: none"> ・櫛引地域は庄内を代表する果樹産地であるが、生産者の高齢化に伴う離農や規模縮小により販売を目的としない樹園地が増加傾向にある。 ・水稲との複合経営による少量多品目の果樹生産が特色だが、少量ゆえにブランド化の難しさがある。 ・果樹農家の担い手確保のためには、生産基盤の強化とともに果樹栽培が経営的に魅力的であることが重要。 ・また、園地の維持・再生のためには、生産者、JA、産直、農業委員会等の関係機関が一体となって園地継承の仕組みを作っていくことが必要である。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>具体的取組</p> <p>○ 既存の協議会内に検討部会（3つの委員会）を新設</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>実施体制</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">櫛引地域産業振興PJ推進協議会 <small>(事務局：櫛引庁舎産業建設課)</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">果樹産地強化検討部会</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>既存</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>園地継承・担い手委員会 <small>(農業者, 農業委員会, JA, 市)</small></p> <p>目的：担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 園地継承の仕組みづくり ● 担い手確保の検討 ● SEADSとの連携 等 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>産地づくり・ブランド力強化委員会 <small>(産直, 果樹部会, JA, 市)</small></p> <p>目的：収益の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 品目・品種の再編 ● 生産技術の高位平準化 ● 儲かる経営体育成 等 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>プロモーション委員会 <small>(観光果樹園, 観光協会, 産直, JA, 市)</small></p> <p>目的：需要拡大、誘客強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光と連携した産地PR ● 果実の需要拡大 ● 販促活動や情報発信 等 </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>新設</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">果樹産地強化に向けた検討を行い、R3年度以降の予算に反映</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>その他の取組</p> <p>○ 生産・経営に対する意識づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修会・勉強会の開催 ● 先進地の視察 </div> <div style="text-align: center;"> <p>+</p> <p>各生産者の 経営意識の 醸成</p>  </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">検討結果に沿った取組 果樹産地の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔期待する効果〕</p> <p>栽培技術の向上 → 品質・単収の向上 → ブランド力向上 → 農家所得の向上 →</p> <p>→ 果樹農家(担い手)の増加 → 樹園地の維持・再生 ⇒ 果樹産地の再興</p> <p>①観光果樹園入込者数：(H29)18,258人⇒(R3)20,000人 +20%</p> <p>②果樹販売額(JA+産直あぐり)：(H29)318,000千円⇒(R3)350,000千円 +20%</p> </div>			
事業目的					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 果樹担い手の育成確保と樹園地継承システムの構築 (2) 需要に応える産地づくり (3) ブランド力の強化による農家所得の向上 (4) プロモーションによる産地のPR 					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会に果樹産地強化のための検討部会を新設し、関係団体を構成員として果樹産地の振興に向けた検討を行う。 ・生産者の意識づくりやプロモーション活動を検討部会による検討と並行して実施する。 ・上記を「フルーツの里ブランド化支援事業」により実施し、鶴岡市における果樹振興のモデルケースとするべく取り組む。 <p>〔実施体制〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会が実施主体となり、フルーツの里ブランド化支援事業（補助事業）に取り組む。 ・協議会で「フルーツの里推進員」を雇用し、事業の推進を図る。（雇用はR5年度まで継続の予定） ・協議会の事務局は櫛引庁舎産業建設課に置く。 <p>※当初検討していた産直あぐり隣接地への果樹園整備についてはゼロベースへ戻すこととし、検討部会の中で産地PR等に必要な施設のあり方も含め検討していく。</p>					
		2019(H31) 予算額		4,745 千円	

事業名	都市農村交流促進事業	実施年度	H31～	事業種別	ハード・ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(2) 都市農村交流の推進		
背景・課題・住民ニーズ 30年近くにわたる都市農村交流は、都市部に鶴岡ファンを多く輩出しており、今後も観光振興やグリーン・ツーリズムの推進、農産物の販路拡大など、多面的な活性化を一層図っていくために、よりステップアップした事業を実施していく必要がある。		イメージ図・写真等			
事業目的 JA庄内たがわ青年部櫛引支部が昭和61年から取り組んできた横浜市立青木小学校との交流は、農業への理解促進をはじめ、櫛引南小学校との相互交流や地域農産物の販売、学校給食での「つや姫」の使用などにつながってきた。また、修学旅行の受け入れは、民泊や農業体験、学校間交流など地域全体での取組みに発展している。JA青年部の取り組みを引き続き支援するほか、農家民宿の強化と支援により、交流による活性化や都市部での本市理解者の獲得、地域農産物の販路拡大と交流人口の拡大など多面的な活性化に資する。					
事業内容 ○交流人口拡大の推進 ・修学旅行受け入れ（ホームステイ、農業体験、学校間交流） ○農家民宿グループ「黒川能の里の会」への研修支援 ・地域特産物活用メニューの開発 ○農産物等販路拡大支援事業補助金 ・稲作出前授業、あおきふれあいまつり参加		2019(H31) 予算額 759 千円			

事業名	たらのきだいネイチャーパーク事業	実施年度	R元～	事業種別	ハード・ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(2) 都市農村交流の推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>「櫛引たらのきだいスキー場」は、ファミリースキー場として多くのスキーヤーやスノーボーダーから絶大な支持を得ているが、全国的なスキーやスノーボード人気の落ち込みと共に入込み客数は全盛期の46%程度となった。</p> <p>「ほのかたらのきだい」は、地域資源活用型の農業構造改善施設として、また、櫛引たらのきだいスキー場利用者への便益施設として、スキー場の厨房や食堂機能を有するロッジに宿泊施設や浴室などを増築して開設した。当初は順調に経営していたが、利用者数は年々減少し、夏場における現在の利用者はほぼ皆無となった。</p> <p>しかし、地域住民や施設利用者からは、両施設存続の強い要望があり、また、民間事業者からは、両施設と連携して交流人口やインバウンドの増加を図りたいという提案がある。</p>					
事業目的					
<p>「櫛引たらのきだいスキー場」と「ほのかたらのきだい」の機能を見直し、それぞれの施設の年間利用者を増加させること</p>					
事業内容					
<p>○春夏秋季 両施設が連携して自然体験教室等が実施できる週末や期間限定の施設として整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花畑、遊歩道、みはらし台の整備 ・自然体験学校などの実施 <p>○冬季 ファミリーや初心者向けスキー場を目指して整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者コースやそり乗り場の整備 ・リフトの整備 ・カラフル照明の整備 ・レンタル物品の整備 <p>○民間活力活用の検討 自然体験施設等との連携や冬季インバウンドの受入れなど</p>		<p>【期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○櫛引たらのきだいスキー場利用者の増 (H29) 26,575人 ⇒ (R3) 35,000人 ○観光・グリーンツーリズム関連施設利用者の増 (H29) 748,731人 ⇒ (R10) 1,003,900人 ○施設経営の健全化、地域の活性化、既存施設の有効活用 			
2019(H31) 予算額				5,710 千円	




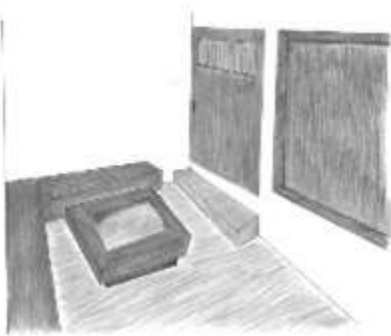
事業名	鶴岡市南部地域広域観光二次交通網整備	実施年度	R1～	事業種別	ハード・ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(3) 広域観光圏の形成	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>(背景) 本市観光客数は微増傾向にあるが、加茂水族館(558,800人/H29)、羽黒山(632,300人/H29)の2強となっている。温泉地への宿泊客数も788,800人/年間と減少傾向にあり、広域型の滞在型観光の推進が必要。</p> <p>(課題) 特に、櫛引地域においては、黒川能王祇会館(2,575人/H29)、丸岡城跡公園(2,033人/H29)、果樹観光園(18,258人/H29)等の高質な観光資源を有するが、そのポテンシャルを生かし切れていない。また観光客の2次交通確保が常に課題となっているが、民間の「庄内交通(株)」では採算性のため運行していないため、櫛引、朝日等の南部地域での地域主体による2次交通運営が必須となっている。</p> <p>(住民ニーズ) 広域交通幹線網では、県道「たらのきだいい鶴岡線(外内島～我老林)」及び農免道路「黒川2期」の施工により、東北横断自動車道の朝日IC、鶴岡ICへのアクセスが大幅に向上することで観光客の増大に期待している。(県への要望・調整事項)</p>					
事業目的					
<p>鶴岡市の日本遺産である「生まれ変わりの旅」、「サムライゆかりのシルク」による羽黒山80万観光客への観光資源の付加価値として、羽黒山と湯殿山の中継地点にある櫛引地域の果樹と歴史資産の観光資源を提供し、また、金峰山や朝日地区即身仏等の黄金地区、朝日地域との広域観光圏の形成を図ることで、市南部地域での滞在型の着地型観光を発信する。</p>					
事業内容		2019(H31) 予算額 660 千円			
<p>市南部地域の観光基盤強化のため、観光商品の開発提供と交通基盤の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市南部広域観光の連携 <ul style="list-style-type: none"> 1)市南部広域連携の観光商品の開発と提供、エージェンツへの売り込み(着地型観光) ○地域主体の2次交通システム(空港・鶴岡駅～市南部観光拠点間の送迎) <ul style="list-style-type: none"> 2)2次交通輸送システムの構築 <ul style="list-style-type: none"> 空港・鶴岡駅～交通ハブ～南部地区観光地と連携 					

事業名	伝統芸能アーカイブ事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ 黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年もの間、連綿と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で、座加入の戸数および能役者が年々減少傾向にある。 また、黒川能の囃子方は譜面ではなく口承による指導、稽古で、一子相伝に近い特有の伝承方法であることから、途絶えかけた演目もあるといわれ、正確に継承していくのが難しい。 独特の謡や舞、所作、囃子が特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化により、人材の確保および十分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。 これまで上演された演目や演奏が収録されているものがあるが、VHSやMD等媒体が古いため再生機器もなく、活用されていない状況である。		イメージ図・写真等 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 既存データ(VHS、カセットテープ) 【データの劣化、再生不能】 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> DVD、CD 【データの保護、再生可能】 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 新たに謡、囃子方の録音記録 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 稽古や鑑賞のための 貸出体制の整備 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 80%; text-align: center;"> 保存伝承 学習への利活用 </div> </div>			
事業目的 既存映像のデジタル化、加えて囃子方等の演奏を撮影収録し、デジタル音源として記録保存することで、伝統芸能の継承を図る。 また、記録したDVD、CDを両座の能役者や、学校関係者等に貸出を行い、実際の稽古や伝統芸能の学習等に利活用する。					
事業内容 【R1、R2年度】 ○黒川能のVHS映像、謡等のMD音源をデジタル化（DVD化、CD化）し、稽古用、観賞用として整備し、利活用できる体制を構築する。 （VHS190本、MD50本） 【R3年度】 ○既存の記録に加え、新たに謡、囃子方の鼓、笛および太鼓の演奏を録音し、デジタル音源として記録保存する。 （1回3曲×10回収録(上座・下座各5回) = 30曲)					
		2019(H31) 予算額		214 千円	

事業名	黒川能保存伝承支援事業	実施年度	H31～	事業種別	事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年の間、連綿と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で座加入の戸数および能役者、囃子方が年々減少傾向にある。</p> <p>また、独特の謡や舞、所作、囃子、着付けが特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化、価値観の多様化、能役者の高齢化等により、人材の確保および十分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>そのため、若い世代に伝統芸能に誇りを持ってもらう活動とともに、文化資源を後世に継承していく仕組みづくりと、旅行者など黒川能の理解者の掘り起こしが必要となる。</p> <p>指定管理者である黒川能保存会は、主な収入を寄附金と公演収入としているが、近年は寄附金も減少傾向にあり、厳しい財政状況となっている。</p>		<p style="text-align: center;">【保存伝承の課題】</p> <p style="text-align: center;">・人口減少 ・能役者の高齢化 ・生活環境、価値観の変化</p> <p style="text-align: center;">【継承の仕組みづくり】</p> <p style="text-align: center;">・人的交流 ・理解促進 ・後継者育成 ・事業の円滑な運営</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○研究会の実施</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○後継者育成事業</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○黒川能保存会</div> </div>			
事業目的					
<p>近年の少子高齢化、生活環境や価値観の多様化により、人材の確保等が難しくなっており、保存伝承が危ぶまれているため、地元櫛引東小学校の児童に対し現役能役者による直接指導を行い、継承の意識付けをし、後継者を育成する。</p> <p>体験用能楽器（30年度整備）と能装束を整備するなど、王祇会館を「見る」施設から「体験できる」施設にするとともに、春日神社との連携や体験メニューの開発をすすめ、黒川能への理解促進と来訪者の増加を図る。</p> <p>また、ふるさと寄附金の返礼品として、体験型返礼品のメニューに取り入れる。</p> <p>黒川能保存会の各種事業および管理運営体制を支援することで、継続的な保存伝承に寄与する。</p>					
事業内容		<p>公益財団法人黒川能保存会が行う下記事業に対し補助を行い支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黒川能保存伝習研究会 黒川能に造詣の深い識見者の講演会や、行事食アレンジレシピの検討、活用等。 ○後継者育成事業 現役能役者による演能および囃子方の指導と水焰の能等成果発表機会の創出。 ○王祇会館体験用装束整備事業（平成31年度） 入館者の体験用装束の整備。 30年度に整備した体験用能楽器とあわせ、体験メニューを提供。 ○黒川能保存会運営補助 黒川能保存会の運営事務全般の補助 			
2019(H31) 予算額				3,068 千円	

事業名	能楽青年交流事業	実施年度	H31～H33	事業種別	事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>現在、首都圏の大学の能楽サークルを対象に、能楽青年交流事業により、能楽合宿、地元若手能役者との交流を行っているが、その時限りの関わりとなっている。</p> <p>せっかく黒川に来てもらっても、短期間のため、黒川能と農業、地元住民の関わり、食文化等について、理解や体験があまり出来ずに終了してしまっている。</p> <p>能楽合宿に参加したことをきっかけにリピーターとなってもらい、黒川能への理解促進、農業や食文化等の体験をとおり、長期的な交流へと発展させていきたい。</p>					
事業目的					
<p>現在取り組んでいる能楽青年交流事業は、首都圏の大学生を対象に、夏季休暇を利用した能楽合宿を行っているが、その時限りの交流になっているため、この事業を通年に拡大し、1年を通した能と農、住民生活の関わりを学んでもらい、能の理解促進、交流の継続につなげる。</p> <p>また、黒川能伝習館、王祇会館、農家民宿の利用促進、観光振興を図り、「能楽合宿地」という分野を確立する。</p> <p>首都圏の大学生や青年のみならず、地元のサークル等にも黒川能伝習館の能舞台を広く貸し出し、宿泊場所には農家民宿を斡旋する等既存施設の利活用、交流人口の増大を図る。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> 大学や青年層の能楽サークルを対象とした能楽合宿の誘致 地元の若手能役者や地元住民との交流 能楽合宿に参加した学生の「水焰の能」への出演依頼 地元農家での農業体験 王祇祭や蠟燭能の観能またはボランティア 地元サークル等への黒川能伝習館の能舞台の貸館や農家民宿の斡旋 					
2019(H31) 予算額					400 千円



事業名	丸岡城跡環境整備事業	実施年度	R2	事業種別	ハード
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(4) 歴史文化の継承と活用促進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>○丸岡城跡史跡公園は、史跡復元の面的整備を平成21年度末に完了し、続けて、平成28年度にはガイダンス施設として武家住宅旧日向家を復元整備して、以降、2,000人を超える観光客を迎えている。</p> <p>○マイクロバス等での来訪やイベント開催時には、市道が狭く進入できなかったり、駐車台数が少なく利活用に支障をきたしていることから新たな駐車場整備を地元自治会や顕彰団体から強く求められている。</p> <p>○マイクロバス以上の大型車がガイダンス施設に進入できるように市道の拡幅を要望されているが、事業費が高額になるため、駐車場整備で支障事項の解決を図るもの。</p>					
事業目的					
<p>丸岡城跡史跡公園を会場としたイベント開催時には、市道が狭くマイクロバスが進入できなかったり、現駐車場が狭いため来訪に支障をきたしている。</p> <p>新たに駐車場を整備し、マイクロバス等での来訪やイベント開催時の駐車を容易にして、地域資源の更なる利活用を図りながら、観光振興、交流人口の拡大、地域の活性化に資するとともに、地元の顕彰活動を通じ地域コミュニティの充実を図る。</p>					
事業内容					
<p>マイクロバス等での来訪やイベント開催時の駐りに支障をきたしていることから、史跡公園近辺に駐車場を整備するもの。</p> <p>○用地買収 [950㎡] ○分筆登記業務委託 ○測量設計業務委託 ○駐車場整備工事 [乗用車15台、大型バス2台]</p>					
		2019(H31) 予算額		0 千円	




事業名	櫛引綴れ織り文化保存事業	実施年度	H31～	事業種別	ハード・ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成8年に京都「石川つづれ」が旧櫛引町に設置した「土筆工房」を契機として、京都西陣織りの流れを汲み、櫛引地域の家庭内産業として栄え、現在も鶴岡地域、櫛引地域に残存。 綴れ織り工房の虚籟庵は、歴史ある「つるおか絹物語」として世界へ発信。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴れ織り職人が少なく、後継者不在、職人の高齢化。 天澤寺にある遠藤虚籟の糸塚、綴れ織り工房の虚籟庵の認知度が低い。 作品製作に時間と手間がかかる。 需要、販路が限られている。 伝統工法を承継していく体制が確立されていない。 		 <p style="text-align: center;">< 虚籟庵（羅漢閣） ></p> 			
<p>事業目的</p> <p>虚籟庵の模様替えを一つの契機として、故遠藤虚籟の頭彰と櫛引綴れ織りに関する情報発信を通じ、再生産体制の確立と伝統工法の継承を図るとともに、周辺施設の天澤寺、丸岡城跡史跡公園、楽朋館等と一体となった伝統文化観光の拠点として地域経済の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客、リピーターの増加 作品製作の再生産体制の確立による伝統工法の継承 天澤寺や楽朋館等と一体となった観光拠点化、地域活性化 		 <p style="text-align: center;">< 虚籟庵空間デザインイメージ ></p> 			
<p>事業内容</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 虚籟庵、頭彰会等との合意形成 <ul style="list-style-type: none"> 虚籟庵の模様替えに係る施設レイアウト検討 施設管理体制の確立 情報発信（20千円） <ul style="list-style-type: none"> 展示会やイベント等で活用する簡易パネル等の作成 ホームページ等を活用した情報発信 展示会、イベント等の開催 綴れ織り情報・資料収集（218千円） <ul style="list-style-type: none"> 故遠藤虚籟ゆかりの地、綴れ織りが伝統的工芸品指定 千葉県館山市 					
		2019(H31) 予算額		2,076 千円	





事業名	櫛引地域デマンドバス導入事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>公共交通バスの利用が低迷し路線バスが廃止されてきたが、人口減少や少子高齢化が進んでいる中であって、これまでの自家用自動車による移動が困難になってきている状況にある。交通安全の観点から高齢者の免許返納が進んでおり、自家用自動車に代わる公共交通システムの構築が求められている。</p>					
事業目的					
<p>高齢者をはじめとした交通弱者の外出支援のため、地域特性及び住民ニーズにマッチした地域の公共交通を補完する新たな地域公共交通システムの構築を図る。</p>					
事業内容		<p>1. 地域内の公共交通に関し潜在需要の掘起しと共に利用者ニーズを把握する</p> <p>2. 新たな地域公共交通システムの具体的手法を検討する。 例えばバス利用者を前日まで把握し、当日は利用者の自宅付近の乗降ポイントから市内循環バスの停留所まで運び、そこから病院や市役所、スーパーなどの目的地までは循環バスを活用し、帰りも同様に自宅付近の乗降ポイントまでデマンドが運ぶといった形態</p> <p>3. 実験的取組みとその後新システムの本格稼働</p> <p>4. 新システムの周知と積極的利用の呼びかけ</p>			
		2019(H31) 予算額			1,005 千円

※上記はあくまでも検討段階におけるイメージ図であり、検討の結果により実際の新公共交通システムとは異なってくる場合もあります。


事業名	くしびき若者未来創造事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>市町村合併により新市としての一体感は醸成されてきているが、旧櫛引町を単位にまちづくりを推進して行こうとする若者の機運は低下してきているとも言われている。</p> <p>また、地域のリーダーが高齢化してきており、次世代への継承を図るため、地域のまちづくりをリードしていける若い人材を発掘・育成することが急務となっている。</p>					
事業目的					
<p>協働のまちづくり、地域の未来創造には、若者の英知と独創的アイデア、そして行動するエネルギーが不可欠であることから、櫛引地域の若者による研修や交流等を通じて、地域のまちづくりを牽引していけるような人材の育成に寄与する。</p> <p>櫛引地域では、まちづくり塾の活動を契機とした若者グループによる「こしゃってマルシェ」が定期的で開催されており地域内外から高い評価を得ているが、若者が地域のまちづくりに参画する機会をさらに創出するため、まちづくり塾や生涯学習センターと連携・協力しながら、地域のまちづくりを担うプレイヤーの発掘と育成を図って行く。</p>					
事業内容					
<p>櫛引地域に在住・在勤する高校生からおおむね40代の若者による研修等の事業を実施し、参加者が実施することを想定した事業の検討を行う。</p> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕掛人養成講座への参加 5回（櫛引生涯学習センター主催） ・仕掛人養成講座で検討された事業の実施 3月下旬 ・先進地視察 3月予定 <p>【令和2年度（予定）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会 2回 ・グループ討論 5回 					
		2019(H31) 予算額			705 千円

事業名	希少淡水魚保存事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>希少淡水魚イバラトミヨの保存は、櫛引町時代の平成6年から継続しているものである。</p> <p>当該イバラトミヨの生息池がある板井川地区では、平成20年に地元有志により「イバラトミヨを守る会」が設立され、地域ぐるみで希少淡水魚の保全に取り組んでいる。</p> <p>また、山形県では、レッドリストを改定し、当該イバラトミヨは準絶滅危惧種から絶滅危惧ⅠB類に変更されている。</p> <p>以上のことから、希少種イバラトミヨの保全を継続する必要がある。</p>		 			
事業目的					
<p>絶滅危惧種である希少淡水魚（イバラトミヨ）の種の保存を図るとともに、地元組織による管理を通じ生態系保全や自然環境保護の意識高揚、地域コミュニティの醸成を図る。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・イバラトミヨ生息池借上 ・ポンプ設置用地借上 ・地下水汲み上げポンプの電気料負担 ・地元等と連携した環境学習会の開催 ・公共施設でイバラトミヨを展示するとともに学校等と連携した活動の実施 					
		2019(H31)予算額			136 千円

事業名	花いっぱい運動で環境美化推進事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>・櫛引町の主導により始まった運動であり経費は全て町の予算から支出していたが、新市になり団体への補助金に切り替わったため地区負担金や賛助会費も収入に充てながら活動している。</p> <p>・国道112号線、通称「サルビアロード」は、歩道植樹帯の設置によって交通事故を低減させる役割を果たすとともに、通行者に心のやすらぎを与えている。</p> <p>・この運動はこれまで多くの住民の努力や国土交通省からの支援、事業所等の協力により支えられてきたものであり、地域全体で大切に育ててきた非常に価値のある運動である。今後も継続していくためには行政の支援が必要不可欠である。</p> <p>・課題として、高齢化の進展やコミュニティ意識の希薄化などにより、ボランティアに頼る植栽や肥培管理が難しい状況になっている。また、国道植栽にボランティア協力をいただいていた鶴岡南高校山添校が令和3年度をもって閉校されることにより、作業協力者の大幅な減少が懸念される。</p> <p>・花いっぱい運動を拡大していくために、地区の管理作業の省力化を図りながら、賛助会員やボランティア等の運動を支える人を増やしていく必要がある。</p>		<div style="text-align: center;"> <h2>花いっぱい運動</h2> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和53年から38年間住民参加型で継続 ・地域全体で大切に育ててきた価値のある運動である ・高齢化などで継続が難しくなっている地区もある  </div>			
事業目的		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【継続事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道112号線サルビア植栽事業 ・櫛引地域花いっぱいコンクール ・新たな品種の試験栽培(H29～)  </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">+</div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【新たな取り組みの検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花づくり講習会の開催 ・花サポーターの募集 ・灌水チューブの購入助成 など  </div> </div>			
事業内容		<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <h2>花いっぱい運動の継続により明るく 住みやすい地域へ</h2> </div>			
		2019(H31) 予算額			300 千円

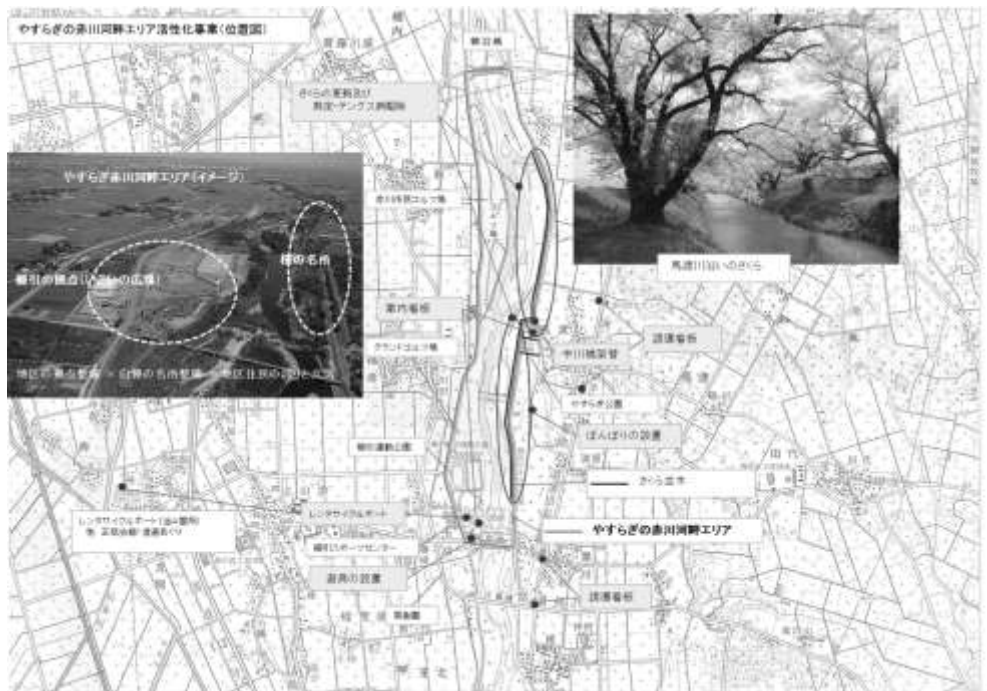
事業名	くしびき夏のイベント推進事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ 少子高齢化の進行や人口減少、就業構造の変化に伴い、地域の連帯感の希薄化が懸念されていることから、地域住民や関係団体が連携協力して賑わいを創出し、地域の活力を維持して行く取組みが求められている。 黒川能野外能楽「水焰の能」は、旧櫛引町誕生30周年の記念事業の一環で開催したイベントで回数を重ねて櫛引地域における夏の風物詩として定着しているが、鑑賞者の減少やイベントの運営体制づくりなどが課題となっている。		イメージ図・写真等			
事業目的 櫛引地域における夏のイベントとして黒川能野外能楽「水焰の能」、農商工観が連携した「くしびき夏まつり」など、地域の特性を生かしながら、地域の魅力を高めるとともに、交流人口の拡大による人・もの・情報の交流をなお一層推進し、地域の活性化と一体感の醸成を図る。		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>伝統芸能の発表部門</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>賑わい交流部門</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ステージ部門</p> </div> <div style="text-align: center;"> <h3>水焰の能</h3>  <p>黒川能 能二番と狂言一番、東小児童の舞囃子</p> </div> </div>			
事業内容 7月最終土曜日に開催している「野外能楽 水焰の能」と連日日程となる「くしびき夏まつり」を夏の二大イベントとして開催する。「くしびき夏まつり」については開始から9年が経過し、櫛引地区最大の夏のイベントに定着してきており、今後も継続して開催していくことを実行委員会において確認している。令和2年度は、10周年を迎えることから、これまでの経験やアイデアを結集して、老若男女が楽しく集い、さらに賑わいを創出するための事業となるよう支援を行う。開催にあたっては商工団体、農業団体、観光団体等による実行委員会を組織し、市が共催する形で運営補助金の拠出と人的支援を行う。 ○商業者等による展示販売、農業団体・産直組織による特産物や姉妹都市の特産品の紹介販売 ○子ども向けコーナーの設置（バルーンアート、バッテリーカー、縁日コーナー） ○ステージアトラクションの実施（伝統芸能の発表、歌謡ショー）		<div style="display: flex; justify-content: space-between; border-top: 1px solid black; padding-top: 5px;"> 2019(H31) 予算額 360 千円 </div>			

事業名	櫛引地域交通安全・防犯の日啓発事業	実施年度	H31	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>櫛引地域では1985年から、毎月一日を「町交通安全の日」と定め、地域住民や通過車両に交通安全を呼びかける目的で、町（市）で配布した黄色い小旗を家の入口や門柱に掲げて交通安全を啓発する運動を行っている。これは櫛引地域に深く浸透しており、地域独自の運動として現在まで継続しているものである。</p> <p>旗は最初の全戸配布から30年以上経過しており、各地区からは旗の老朽化や紛失の声も多数寄せられているほか、配布後に地域に住み始めた家庭には配布されていない、地区によって取り組み姿勢に差があるなどの課題がある。</p> <p>また、櫛引地域では夏の安全県民運動期間中や秋の交通安全運動期間において、立哨指導や「000(なしなしなし)作戦」などを鶴岡市防犯協会櫛引支部と連携して実施するなど、防犯活動にも積極的に取り組んでいる。</p>		  			
事業目的					
<p>交通事故・犯罪のない安全で安心な町を実現するため、これまでの「交通安全の日」の旗を新たに「交通安全・防犯の日」と改めて作成・配布するとともに、広報や音声告知放送などで改めて活動の趣旨を説明することで、櫛引地域の住民や通過車両に対して交通安全・防犯の意識を醸成する。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・新たに防犯啓発の内容も加えた「交通安全・防犯の日」の旗を作成し、R1.10月末に櫛引地域に全戸配布。 ・啓発チラシ全戸配布 ・R1.10.20に行われた明るい地域づくり櫛引大会では小旗の贈呈式を行ったほか、大会宣言に小旗掲揚運動の推進による意識高揚を盛り込み、一層の運動推進を確認した。 ・毎月1日は音声告知放送にて周知を行い、庁舎前にも小旗を掲揚する。 ・R2年度以降は、小旗の補充・交換分を庁舎に保管し、問い合わせに対応するとともに、小旗掲揚運動を推進していく。 					
		2019(H31) 予算額		1,145 千円	

事業名	櫛引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業	実施年度	R2～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>平成29年度までは、地区公民館等の施設を使用しながら概ね65歳以上の高齢者を対象に、語らいや交流、運動や健康づくりなどを通じて、閉じこもり・認知症などの予防と要介護状態にならないことを目的として、櫛引地域の多くの地区でいきいき健康クラブ運営事業（介護予防事業）が実施されていた。現在は、介護保険法の改正に伴い、市全域で長寿介護課が所管する「地域介護予防活動支援事業」に移行し、年間を通して定期的に運動（体操）を取り入れることで、高齢者の基礎体力・筋力アップを図ることで介護予防の効果を高める内容に見直されている。このため、いきいき健康クラブ運営事業とは取り組み内容が大きく異なっているため、従来の事業を代替するには至っておらず、移行を断念し高齢者同士の交流や語らいなどの機会を失っている地区も一部ある。なお、住民自治総合交付金の見直しにより、地区の判断で自由に活動できる財源が多少なりとも交付されている。</p>		<p>◆ 地区からの相談、要望、支援の要請等に対応・・・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">健康づくり、介護予防、閉じこもり予防、生きがい・絆を深める活動</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">体操・軽スポーツ・レクリエーション・創作・芸術・研修等</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◆ 地区の意向に沿った活動ができるように支援し・・・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">高齢者が住む地区の中に、気軽に歩いて参加できる活動の場（活動拠点）の継続設置や新規開設へつなぐ</div>			
事業目的					
<p>既存の補助事業や社会福祉協議会所管の助成事業等の活用により、何らかの形で地区を単位とした高齢者の活動の拠点を設置することで、高齢者の健康維持、いきがいつくり、閉じこもり予防の面で効果が期待できることから、意欲的に取り組む地区や団体等の意向に沿ったスタイルでの活動拠点が運営できるように側面から支援し、高齢者が安心安全に生活できる地域づくりの推進に資する。</p>					
事業内容		<p>地区からの要望等に応じて、以下の取り組みを行う。</p> <p>①情報の収集 ②活動拠点の運営や各種手続きに関する相談やアドバイス ③活動メニューや専門職（栄養士、歯科衛生士、インストラクター等）の紹介 ④事業所管課との調整など</p>			
		2019(H31) 予算額		- 千円	
		<p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域介護予防活動支援事業【長寿介護課】 ・ いきいき百歳体操講座【長寿介護課】 ・ 生涯現役推進事業（なり元気塾）【市社協事業】 ・ 福祉活動支援事業（サロン活動）【市社協事業】 ・ その他【地区単独事業】 			

事業名	「空にかける階段」インフォメーション事業	実施年度	H31～	事業種別	ハード・ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ (背景) 櫛引地域出身の世界的石像彫刻家「富樫実」氏の「空にかける階段シリーズ」は、櫛引地域を始め、市内にも庄内空港、山形自動車道鶴岡IC、美咲町開発地、開運橋、千歳橋等多数があり、さらに国内外にも多く設置されており、その芸術的評価は高いものとなっている。 (課題) 氏の作品については市内の各所に展示されているが、氏の人物像、功績、作品思想等の紹介が薄く地域住民からそれほど認知されていないという課題がある。 (住民ニーズ) 櫛引観光協会をはじめ地域の富樫芸術ファンは、氏の功績を広く知らせ後世に伝え、また櫛引地域の芸術的シンボルとして「空にかける階段」を位置づけ、黒川能、丸岡城跡の観光資源に繋げたいという考えが以前よりある。		イメージ図・写真等 			
事業目的 ○世界的彫刻家である富樫実氏（名誉市民）の「空にかける階段」作品を紹介するブースを拠点として整備するとともに、市内各所に点在する氏の作品を観て回遊できる仕組みを作るとともに、氏の功績を広く伝えるもの。					
事業内容 ○名称 「空にかける階段」インフォメーションブース（仮称） ○設置場所 生涯学習センター（ロビー） ○内容 <ul style="list-style-type: none"> ・作品紹介ブースの整備 ・氏の彫刻作品や作品思想を紹介するパネルの作成 ・紹介ビデオ、パンフレット等の作成。 ・市内各所に設置されている作品を回遊できる仕組みづくり。 ・拠点整備のための関係者との協議 		2019(H31) 予算額			
				234	千円

事業名	櫛引地域の情報発信事業（櫛引PR事業）	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>○飛躍的に普及拡大しているインターネットは、発信できる情報量が豊富で、即時性や経済性、双方向性といった特性を持っている。特にソーシャルネットワーキングサービス（SNS）は、即時性及び経済性に優れており幅広い人々に情報発信が可能となる。</p> <p>○ホームページやパンフレットは形式的であり、具体的な内容が伝わりづらい。</p> <p>○櫛引地域外の人々が櫛引地域のタイムリーな情報について知る機会がほとんどない。</p> <p>○KCTはあるものの櫛引・朝日地域のみでありそれ以外の地域に動画で情報発信はできていない。</p>		<p>The diagram illustrates the information dissemination process. At the top, a box labeled '櫛引地域の情報(観光・フルーツ・日常)' contains images of a woman with a camera, fruit, and a festival. An arrow labeled '撮影・編集' points down to a box for '櫛引フルーツ日記 (SNSアカウント)' with Facebook and Instagram logos. Below this, arrows show interactions: '写真イラスト' (photo/illustration) going down to a group of people, 'いいね!などのメッセージ' (likes/messages) going up, and '動' (video) going up. From the group of people, arrows labeled '拡散' (dissemination) point to a network of people icons. A search bar at the bottom right contains 'くしびきフルーツ日記' and a search icon.</p>			
事業目的					
<p>近年の情報発信の多様化により市民や観光客の情報入手方法はホームページやパンフレットのみだけでなく、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどのソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を利用したものが増えている。SNSでは写真を中心とした文字での情報を、動画を活用した情報が発信可能である。これらを利用し、SNS世代である若者を中心に櫛引のフルーツを中心として日常風景などを発信する。</p>					
事業内容					
<p>■SNS (facebook・instagram) の活用</p> <p>・元年4月に立ち上げた「くしびきフルーツ日記」(R2年2月現在vol. 58配信)において、静止画・イラストだけでなく果樹を中心とした作業や櫛引の日常風景などについて動画と連動した情報発信を行う。</p>					
		2019(H31) 予算額		397 千円	

事業名	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業	実施年度	R3～	事業種別	ハード・ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ 1. 子どもが、遊べる公園・環境が少ない。 2. 年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として 整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。 3. 桜開花時期、やすらぎ公園沿いにぼんぼり設置要望がある。 4. 桜の手入れ不足の声 (テングス病駆除や大枝剪定) 5. 桜の開花時期に必ず馬渡川付近への行き方についての問い合わせがあるが、道路標識が無いため、説明に苦慮する。		イメージ図・写真等 			
事業目的 多くの地域資源が集積する「やすらぎ赤川河畔エリア」を一体的にとらえ適切な管理と活性化を施すことで、交流人口を増やしにぎわいを創出する。 また、スポーツ公園付近に遊具の新設、年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。					
事業内容 やすらぎの赤川河畔エリアは住民いこいの場の拠点化 ①周辺施設との赤川周遊（右岸含む）が出来るレンタサイクルの配置。 （サイクルポート：4箇所：スポーツセンター、産直あぐり、王祇会館、丸岡城跡） ②誘導案内看板4基（馬渡川の桜づつみへのアクセス） ③利用案内看板2基（ジョギング等の案内用） ④桜並木の適切な管理 国、地元、市の三者協定による計画的更新、テングス病駆除・大枝剪定 ⑤ちびっこ広場に遊具設置 「赤川かわまちづくり計画」で整備検討					
		2019(R1) 予算額		— 千円	

事業名	山添校跡地の子育て活用構想	実施年度	R3～	事業種別	ハード
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
<p>背景・課題・住民ニーズ</p> <p>現在、櫛引内の子どもや家族連れ遊び場は、各地区広場、運動公園等があるが、遊具の設置状況としては小型のものがほとんどで、複合遊具・大型遊具・アスレチック遊具がない状況である。子育て世代やまちづくり塾メンバー、地域振興懇談会委員など多方面より、地域に大型遊具のある遊び場が無いとの声が寄せられ、そのニーズは高い。また、地域振興懇談会の中で鶴岡南高等学校山添校の閉校後の跡地利用を今から考えるべきという意見が出されている。</p> <p>櫛引地域の公共施設や文教施設が集中している中心地に、遊休施設として放置されるより、傷まないうちに継続的な利活用を構想するもの。</p> <p>なお、校舎棟に関しては空調設備がすでに故障しており県では修理の予定はないとのことから、閉校後に活用していくには多額の修繕費用を要し、老朽度合を鑑みると、今後の利活用は現実的ではないと考えている。</p>		<p>イメージ図・写真等</p>			
<p>事業目的</p> <p>若手世代等のニーズを考慮し、子育てにかかる環境整備の一環として、グラウンド及び体育館棟を再整備し、安全に遊べる場・休日に親子でふれ合える場を創出し、子どもの健全育成に寄与するとともに、子育て世代や祖父母世代が集い交流することにより地域コミュニティの醸成につなげる。もって少子化への歯止めの一助とする。</p> <p>校舎棟活用については、前述のとおり厳しいと判断され、投資に見合う画期的な利用方法が見つからない限り見合わせたい。</p>					
<p>事業内容</p>					
<p>○跡地の活用方法について構想を検討する。</p> <p>○想定される活用法</p> <p>①体育館棟の活用検討 元々手狭な櫛引西部学童保育所を移転するとともに、放課後・休日にも開放し児童館的な利用ができないかを検討する。また、平日夜間は体育館の有料一般開放を合わせて検討する。</p> <p>②グラウンドの活用検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 屋外人工芝運動場 2. 大型・コンビネーション遊具、築山等 3. 屋外トイレ、水飲み場、外構（駐車場） <p>○構想が実現できる見込みとなった場合は、各担当部署での事業実施とする。 (県との貸付もしくは譲渡協議含む)</p>					
		2019(H31) 予算額		0 千円	